

【参加者 A】

釧路市のまちづくりについてお聞きします。これまで中心市街地活性化がマネジメントで進められてきましたが、現在は中断されています。中心市街地には丸井今井や旧 COM などの老朽化した建物がたくさんある一方、町内でも人が住まなくなった住宅などがある。風が強い時などは、旧 COM の上から外壁の一部がバラバラと落ちてくる。今後の釧路の観光を考えると、観光客や長期滞在者が夏から秋にかけて幣舞橋周辺から街中を歩いた時に、危険な上、見た目が非常に悪い。鼠を見かけるようなことになれば衛生上も悪い。そういった環境があちこちで見られる。この点を何とかしないと、せっかく来ている長期滞在者等の顧客から見捨てられるし、非常に良くないことだと思っている。こうしたことについて、市としてどう考えているのか。当然お金もかかると思うが、市のビジョンがあれば教えてほしい。

【市長】

空き家の問題は、釧路市だけでなく全国的にも大きな課題になっています。そのため、条例を制定して対応していくという議論があり、実際、道内でも室蘭市や滝川市等では条例をつくって大きなニュースとなりました。

しかし、条例を制定しても運用を伴っているところがなく、非常に難しい状況になっています。行政が主体となって対応する、ということは、公のお金で進めていくこととなります。建物自体は個人の所有物であり、この点において、どの程度公金を投入できるのかといった問題が出てきます。一次的には、所有権のある個人の財産は、個人でしっかり管理していただくことが基本となります。そのため、なかなか前に進まない現状にあります。

こうした空き家、空きビルの問題が全国的な課題になっていることを踏まえ、新たな法案をつくる話もありますので、今後の動きを見て判断していきたいと思います。

【都市整備部長】

議員立法による空き家対策の新法の話があります。これまでは、なかなか立ち入り調査ができなかった面がありました。また、個人の持ち物であることには変わりありませんが、一部には税の優遇があります。建物や住宅があると固定資産税が安くなるため、話が進まないこともあります。こうした背景から立ち入り調査権も含めた議員立法の話が出ています。しかしながら、財源の問題があり、国からも財源がうたわれていないため、要望などを含めて進めていきたいと考えています。

【市長】

まちづくりを考えた中で、国がどういった形で進めていくのかルールを示してほしいと考えています。国内の法律は、個人の利益が尊重される法体系になっていることから、議員立法ではどうなっていくのか注目しているところです。

例えば、街中で本当に危険で手付かずになっているものについては、所有権を放棄してもらい、市で管理を行う。そして、市民の皆さんから頂いた税金を議会等々でしっかり説明をさせて頂いた中で、その場所の活用策を進めていくことは、市民の皆さんも一定の理解を示してくれるのではないかと考えています。公の利益が法律の中に組み込まれることで、世の中がもっと良くなると期待しているところです。釧路市としても課題であることは重々理解しています。

### 【参加者B】

2つ質問があります。1点目は、防災訓練と災害発生時の高齢者や障害者などの災害弱者に対する考え方を伺いたい。東日本大震災の後に気仙沼市等に行ってきましたが、4mの津波で鉄筋の建物が破壊されていました。

そうした体験もあり、釧路市がハザードマップや避難所、備蓄倉庫などの整備などを進め、防災に力を入れた取り組みを行っていることは素晴らしいと考えています。

一方で、災害弱者に対する訓練方法や避難方法をしっかり考えないと、被害が拡大すると考えている。町内会の加入率が50%台という状況を考えてみると、災害弱者が何名いるのか、氏名など知らないことが多いため課題があると思う。行政として個人情報保護の問題などがあると思うが、何か町内会に入っていないなくても個人情報をつかむことができないものですか。

2点目は防災訓練の回数が少ないことです。自分のことは自分で守ることが基本と言いますが、普段から訓練をしなければ、災害から身を守れないのではないのでしょうか。行政として指導をして欲しいと思います。

### 【市長】

防災訓練は、町内会と連携する必要があると考えています。例えば、大楽毛は避難困難地域として位置づけられています。町内会の方が学校と相談しながら、小学校の避難訓練をさまざまなブロックに分けて行っています。行政が細かい指導を行うのではなく、地域の中で取り組みを進めていき、訓練の回数を重ねていくことが良いと考えておりました。連合町内会との連携が重要と考えています。

また、災害弱者または要援護の方については、800人いるとされていますが、どこに、誰がいるのか等については地図上を含めて福祉部で把握しています。現状、個人情報保護法があり、各町内会に情報提供をしないという位置付けになっています。そこで、福祉部では、どういった状況であれば外部に情報を提供できるのか検討した結果、直接町内会に情報を提供するのではなく、要援護者の支援を目的とした組織を新たに作り、そこに要援護者の情報を提供するといった形を取っています。既に、市内には協働会という形で10団体作られています。東日本大震災の際には入舟地区の協働会が2人の要援護者を避難所にお連れするのに20分間で全部対応することができたという大きな効果がありました。

一方で、市役所の方で違う方に電話で安否連絡をした上で、救助の可否を判断し、対応をしたが、10名の方を救助することに2時間かかりました。それを踏まえると組織の

構築をすることが重要であると認識したところであります。町内会や福祉分野とも相談しながら、市内全部でできるように組織の充実を進めていきたいと考えています。

### 【参加者C】

今日は、このような形で地区会館を使っていただいております。まちづくりに関して伺いたい。最近、コンパクトな街づくりについて聞くが、城山・大川・材木地区は地域の拠点のモデル地区にはなっていない。中心街の方と一緒に拠点地区に含まれているのか。

また、中心市街地活性化の取り組みについて、まちづくり会社まで作って5年間をかけてもまとめきることができなかった。最近、津波と絡み駅周辺の再開発の話が浮上しているが、どの程度具体化していくのか。中心市街地の可能性が途絶えたということか。市と管理者との間でしっかりと協議した上で取り組んでくれれば、もっと変わっていたのではないかと考えている。

次に、チャランケチャシ跡は、昭和10年頃に国指定の史跡になっているが、自由に入ることができる。一方で、すぐ側にあるお供え山（モシリヤチャシ跡）は完全に封鎖されている。これは、津波の際の一時避難のために使えないものかと思う。危険地域のために、立ち入り禁止になっているのであれば、危険回避のための措置をするなど対応するとよいのではないかと思う。

耐震岸壁の問題は、地震には強いが、津波が来た際に、どの程度で使えるようになるのか、答えられる範囲内で教えてほしい。

### 【市長】

コンパクトシティは、それぞれの機能を充実するための仕組みです。店や公的な機関、病院といったことを考えて7エリアを提示させていただいた。

中心市街地と駅周辺については、別物と考えて頂きたい。駅周辺の対応については、平成19年の段階で、商工会議所の方からA案とB案が出されたが、釧路市は財政状況の中でどちらも選ぶことができない状況だったため、凍結せざるをえない状況になった。

しかし、釧路でも東日本大震災を経験した中で避難の確保が必要となりました。浸水区域に住んでいる方は市民12万5千人いるため、その方々を避難させるためのハザードマップを策定したところです。避難は原則徒歩であるため、徒歩1キロ圏内には命の助かるビル等の建物を確保していますが、現実的には車を持っている方は車を使うと考えられます。そのため、自己判断の中で幣舞橋、久寿里橋等を使い、（富士見方面の）上に登っていくことは良いという判断になってきます。

そうした中で、釧路駅で分断されることが大きな課題になっている。まちづくりの中の効果といった議論と防災の観点から線路や駅の在り方について、北海道も含めて相談しながら進めています。大きなお金を使って事業を復活させるのかといったご意見もありますが、財政健全化の取り組みを進めている平成27年までにしっかりと示したいと考えています。

中心市街地の活性化については、商工会議所の方で、現行の中でできることを進めて

いる状況にあります。しかしながら、個人の権利と公の利益の部分といったことがあるため、市としても相談しながら検討とバックアップをするつもりでおります。

耐震岸壁については、津波が引けば使用は可能になります。車両が流れ着いた場合などは、懸念事項としてあると思いますが、周辺にはそういったものは置いていません。9月10日には被災後2日後という設定で訓練を行う予定です。その訓練では、輸送艦が入港し、物資の搬入をするといったシナリオになっています。

### 【参加者C】

震災時には、いろいろな廃材や車などが流れて来ると思うが、耐震岸壁は本当に使えるのか。

### 【総務部長】

対岸の入舟はクジラスクリーンで漂流物が行かないように対処しています。その周辺は平坦な地形になっていることから、耐震岸壁は使用できると考えています。被災後、救援活動が行われる際には、海上自衛隊等がそこから物資を輸送すると考えています。

### 【参加者C】

駅周辺については、主眼として南北を結ぶという考えに立脚して進めているということではよろしいのですか。

### 【市長】

避難路の確保が重要と考え、基本的にイメージはそのように考えています。

### 【総合政策部長】

まず、チャランケチャシ及びお供山の関係について、少し確認が必要なため時間を頂ければと思います。私の小さい頃の記憶では野焼きしていたこともありましたが、近年ではフェンスを設置するなどの対応をしています。いずれにしろ、チャランケチャシとお供山では、対応が異なることが予想されるため状況を確認したいと思います。

コンパクトな街づくりでは、市で想定している地区に城山地区の商店街は含まれていません。橋南地区では、桜ヶ岡地区と春採下町地区が拠点として位置付けられています。行政・医療機関、買い物などの機能を考えて市内7地区を選定しています。

現在、モデル的に取り組みを進めている新橋地区では、北海道の補助金180万円を用いて3つの事業を実施しています。内容は、魅力づくりプラン、公共機能の社会実験の実施、地域防災避難マップの作成となっており、社会実験は9月末まで行います。その他2つの事業は年度内に完了する予定です。その後、内容を検証して、地域でご理解とご協力を頂ければ、再度指定して地域でどうあるべきなのかといったことを考えたいと思っています。

### 【参加者C】

市の関連施設や現在建設中の防災まちづくり拠点施設は海拔の低い場所にあります。特に消防本部の場所は心配です。これらの施設は巨大津波が来た際には本当に持ちこたえられるのでしょうか。

### 【市長】

最初に津波が来るところに消防本部があります。そういった点では、これまで地震時には津波が心配であるといったことが言われてきましたが、実際には対応が不十分であったと思います。

しかし、やむを得ない部分もあると考えています。市役所を含めてMOOも地下に電気室があります。市内の銀行やホテル、国の合同庁舎も含めて同様です。地震多発地帯で津波が危惧されますが、費用等、さまざまな問題から電気室の場所が決められたという現実もあります。

また、今まさに中心市街地の空洞化といった問題を含めてさまざまな議論が進められていて、単に移動するといったことにはならないと思っています。耐用年数を含めた検討が必要と考えています。そうした背景の元、防災まちづくり拠点施設は、電気室や市民の皆さんの大切な情報が集まる電算機器を上部に置き、併せて避難所等も設置して、いかなる時にも使えるようにしたいと考えています。既存施設と現実的な問題の中で、対応が必要と考えています。

耐震は、小学校のような公的な建物、またそれに準ずる建物についても強度を確保していきたいと考えています。また、国では、民間でもホテルなど多くの人が入る施設については何らかの基準が必要と考えていると聞いており、近いうちに示されるものと思います。それに伴い市でも対応したいと考えています。

まずは、考えられる最大津波が来た際に、逃げる場所があるということが地域にとっての安全・安心と考えておりますので、ここはしっかり確保して対応していきたいと思っています。

### 【参加者C】

市役所庁舎が災害対策の本部になるということですか。

### 【市長】

今後は、防災まちづくり拠点施設が災害時の拠点になります。東日本大震災の時には、日本国内の情報は流れても、自分が住む地域の情報がないといった問題がありました。これまでは、テレビがあれば良いと考えられていましたが、それでは不十分ということが明らかとなりました。そのため、地元のエフエムくしろを活用して、市内どこでも情報が届くようにしたいと考えています。

### 【参加者D】

人材育成について質問と提案をしたいと思います。人材育成は、職業に結びつくよう

な失業者など対象としていることが多いと思う。今回は、その点ではなく、低年齢層を対象とした職業観の育成について伺いたい。例えば、プログラマーになるために、プログラミングができる人が子供達と一緒に取り組むなどがあると思う。

### 【市長】

人材育成は、失業者だけでなく中高生も対象にすることは重要な視点であると考えています。その点から学校の中では、社会の厳しさや金利などの社会の仕組みを教えることも必要と考えています。また、地元で暮らしていくことや自分のやりたい仕事をやるといった意識を高めていけるようにすることが大切だと思っています。実際に、道内大学の医師が子供達と触れることで意識を高めるといった取り組みがあります。市内には、小中学校や北陽高校がありますので、そういった仕組みを構築したいと考えています。

### 【参加者E】

市民によるまちづくりの意見として条例を掲げているが、どのようにして実現するのか。先日テレビで見たのだが、地域の小学校の立て直しについて、地域と行政が景観などを含めて話し合っただけで決めた事例があった。釧路市では、地域に無関心な市民がいる等の課題があるが、駅の問題にしても市民の意見を聞いていくことが重要ではないかと思う。

### 【市長】

市民の皆さんのご意見聞くことは重要と考えています。市役所でも自分の部署の以外の事には、関心を持たないといったことがあります。自分には関係ないといったことではだめだと思っています。相談しに来られた方の気持ちを自分に置き換えて考えることが大切だと思っています。

そのためにも日頃から情報をしっかり出して行くことが重要だと考えています。できるだけさまざまな分野の情報を開示していきたいと考えており、多くの情報があった上で判断がある、と考えています。ホームページや新聞などさまざまな機会を通じて発信していき、その中で、ご意見を頂きしっかりとした条例を作っていきたいと思えます。